

平成19年3月29日

報道機関各位

国土交通省中部地方整備局
富士砂防事務所

お 知 ら せ

1. 件 名

富士山南西斜面のスラッシュ雪崩の調査結果について

2. 概 要

平成19年3月25日朝方、低気圧通過時の降雨（五合目雨量観測所 総雨量122mm）に伴い富士山南西斜面で発生した雪崩について、29日午前、富士山スカイラインから富士スバルラインにかけて雪崩専門家とともにヘリコプター（中部地方整備局所有 まんなか号）による上空からの調査を実施しました。

専門家からは、直ちに下流へ大きな危険を及ぼす可能性が低いことや、5月頃までは同様な現象に注意が必要であることなどが指摘されましたのでお知らせします。

専門家 独立行政法人 土木研究所 雪崩・地すべり研究センター所長 はなおかまさあき 花岡 正明
社団法人 日本雪氷学会 関東・中部・西日本支部 副支部長 あんま そう 安間 荘

3. 専門家の所見

- ・今回の雪崩は、気象条件及び雪崩堆積物の外観からスラッシュ雪崩とみられる。
- ・スラッシュ雪崩は、大沢川のほか、ほとんどの南西野溪で発生しており、特に富士山スカイライン周辺の弓沢川支川市兵衛沢などで規模の大きいものが発生している。
- ・スラッシュ雪崩の発生地点は、視界不良によりはっきりしないが、森林限界付近から上部と見られる。
- ・スラッシュ雪崩は、概ね標高2000m付近までで停止している。
- ・今回のスラッシュ雪崩は数年に一度発生する程度の規模であり、過去の実績（平成4年、7年、8年）から見ると大規模なものではない。
- ・今回のスラッシュ雪崩堆積物はさほど多くなく、大部分が雪であり、土砂量はわずかである。
- ・それらは、今後、降雨があれば、下流へ移動する可能性があるが、直ちに下流へ大きな危険を及ぼす可能性は低い。
- ・通常5月頃までは、今回と同様なスラッシュ雪崩が起こる可能性はあり、降雨等の気象状況に注意が必要である。
- ・今回はスラッシュ雪崩の発生域及び富士山の東側斜面については、視界不良のため、調査できなかったため、今後調査確認が必要である。また、今後、量的解析を進める必要がある。
- ・今回撮影されたスラッシュ雪崩の映像は非常に貴重であり、今後、解析が必要である。

4. 下流における土砂災害対策について

現在の状況は、流域下流部では人家等の被害は発生しておらず、雪崩発生箇所から人家等の間には砂防施設があることから、直ちに危険な状況ではないと考えています。

ただし、今後の降雨により流出した土砂の一部が流出する可能性がありますので、十分な注意が必要です。

富士砂防事務所では、今後も調査を行うとともに砂防施設の整備に努めて参ります。

5. 添付資料

上空からの状況写真

6. 記者発表資料配付先

富士宮市記者クラブ、富士市記者クラブ
静岡県県政記者クラブ、山梨県県政記者クラブ

7. 問い合わせ先

国土交通省中部地方整備局 富士砂防事務所 調査課長 石原 慶一

TEL：0544-27-5387

上空からの状況写真

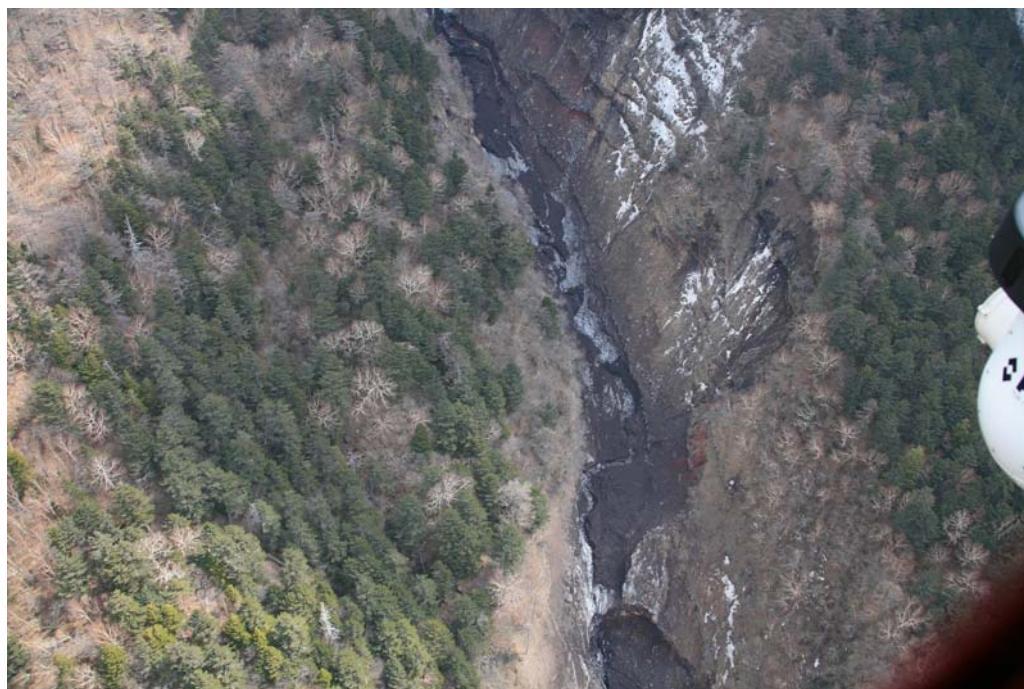


写真-1 大沢 崩れ下流 7 の滝付近 (標高1850m) 土砂堆積状況



写真-2 滑沢 (標高1950m付近) スラッシュ雪崩 痕跡状況



写真-3 滑沢、仏石流し合流点付近（標高2100m） スラッシュ雪崩 痕跡状況



写真-4 市兵衛沢（標高2100m付近） スラッシュ雪崩 痕跡状況



写真-5 富士宮口 五合目付近 (標高2300m) スラッシュ雪崩 痕跡状況



写真-6 富士スバルライン 大流し付近 (標高2200m)
スラッシュ雪崩の痕跡はない